



【サッカーW杯】日本のサポーター 試合後のごみ拾い

白熱したサッカー・ワールドカップ(W杯)の試合後、熱狂の中にあるスタンドはいつも残飯やコップ、包み紙などが散乱している。

19日、W杯ロシア大会での初戦で日本代表はコロンビアを2対1で下し、南アメリカのチームに初めて勝利した。日本のファンには狂喜乱舞する十分な理由があった。

しかし日本代表がグラウンドでコロンビア代表をきれいに片付けた後、ファンも同じことをした。自分たちが座っていたスタジアムの座席を念入りに掃除し始めたのだ。

持ち込んだ大きなゴミ袋を手に列の間を歩き回ってごみを拾い、開場時と同じくらいきれいにしていた。こうしたことは今回が初めてではない。「サムライ・ブルー」のサポーターたちは、いつでも良いマナー



を守り続ける。

英国人のクリストファー・マケイグさんはツイッターで「今のところW杯で一番好きな場面は、日本がコロンビアに勝った後、日本のファンがごみを拾っていたこと。この試合で私たちが学べること。日本を応援する理由」と話した。



在トリニダーゴ・トバゴ・カナダ大使館のレスリー・アン・ボワツセイユさんも、「日本のファンが、W杯の試合後に座っていたところを掃除している。素晴らしいお手本。なんて素晴らしい！ よくやった日本」と書いた。

日本に住むスポーツジャーナリスト、スコット・マッキンタイヤさんはBBCの取材に対し、「これはサッカー文化だけでなく、日本文化の一部だ」と説明した。マッキンタイヤさんは日本チームの取材のためロシアを訪れているが、サムライ・ブルーのサポーターの一風変わった気質も意外ではないと言う。



Leslie Ann Boisselle
@trinilab

Follow

#Japanese fans clean up the area where they were seated after their #WorldCupRussia2018 encounter. What an example. How wonderful !! well done 👍 #japan

Christopher McKaig
@Coachmckaig

Follow

This is my favourite moment of the World Cup so far; Japan fans picking up litter after their victory vs Columbia. The lessons in life we can take from the game. Why I support

「サッカーは文化の鏡だという人がいる。何もかもが清潔に保たれているのは、日本社会の重要な一面だ。あらゆるスポーツイベント、もちろんサッカーでもこのことが言える。」

日本での試合を見に来た外国人にとって、ファンの掃除は意外な光景のひとつだ。

マッキンタイヤさんは、「スタンドの床にペットボトルや食べ物のパッケージを置いていこうとすると、日本人に肩を叩かれ、

ごみは置いていってはいけない、片付けるか家に持って返るべきだと諭されることがある」と話す。

日本人は幼い頃から、掃除の習慣を教え込まれる。

「サッカーの試合後の掃除は、学校で習った基本的な習慣の延長だ。子どもたちは教室や廊下を掃除する」と、大阪大学のスコット・ノース人間科学教授は説明する。

「幼少時代に定期的に覚えこまされることで、多くの日本人の習慣になっている」試合後の掃除の光景が、ソーシャルメディアで何度も話題になっていることについて、日本のサポーターはもちろん誇らしく思っている。

ノース教授は、「日本のサポーターは掃除とリサイクルの必要性を高く意識しているだけでない。W杯のようなイベントで実践することで、自分たちの生き方への誇りを形にして示し、我々とシェアしている」と指摘した。

「責任感をもって地球を守る必要性を表明するのに、W杯以上の場所はない」

だからといって、日本人に情熱がないというわけではないとマッキンタイヤさんは話す。情熱があっても、基本的な振舞い方を忘れてたり、ましてや暴力につながることはないのだ。

「当たり障りがなく退屈に聞こえるかもしれないが、これが尊敬と礼節をもとに作られたこの国の現実」とマッキンタイヤさんは笑う。「それがサッカーの場にも及んでいるだけだ」。

「W杯でさまざまな国や人々が一堂に会し、こうしたことを学び合えるのは素晴らしい。これがサッカーの良いところだ」



みんな頑張りました！ 西諸地区中学校総体



6月9・10日(バドミントン競技)と6月14日(陸上競技)に第69回西諸地区中学校総合体育大会が行われました。紙屋中学校からも総計20名の生徒がそれぞれの競技に参加しました。成績は次の通りです。みんな練習の成果を発揮して一生懸命頑張りました…！

【バドミントン競技】

男子個人戦出場 ※ トーナメント1回戦・2回戦で惜敗

3年 石川 遼くん 2年 石川 叡くん 2年 森山 素直くん
1年 川嶋 颯雅くん 1年 西田 航くん

女子個人戦出場 ※ トーナメント1回戦・2回戦で惜敗

2年 大久保心菜さん 2年 川内 萌花さん 2年 森永 陽芽さん

【陸上競技】 ※ 各種目4位まで 県大会出場となります。県大会は7月22・23日

男子
3年 小田 峻也くん 共通3000m 3位 3年 平野 蒼真くん 共通 800m 3位
2年 梶山 聖琉くん 共通 200m 7位 共通 800m 10位
2年 杉元 健斗くん 共通3000m 2位 2年 立神 孝成くん 2年1500m 2位
2年 山口 貴生くん 2年1500m 14位 1年 有木 駿人くん 1年100m予選7位

女子
3年 藤田 あいさん 共通1500m 1位 3年 800m 1位
3年 松嶺 薫奈さん 共通1500m 9位 3年 800m 7位
2年 永田ひなのさん 共通1500m 5位 2年 800m 3位
1年 園田さくらさん 1年 800m 1位



本年度実施した『体力テスト』の結果、本校生徒の体力のようすや特徴が明らかになりました。学校全体の特徴として、「敏捷性」が高く、「柔軟性」や「瞬発力」の得点、そして「投げる力」の巧みに劣っているというようすが見られます。この結果をもとに、体力向上プランを立てて、生徒一人一人の体力を高めていくよう指導していきたいと思っています。

ご家庭でも体力づくりについて話題にいただければ幸いです。詳しくは次号で…！ **取り組ましよう**

